

山田辰美の
自然大好き

人にこそ、その意味の生活を支える恵みから届けられるのか。大井川はくめども源という意味の川の深い森が生み出し、恵みを流域に届け

大井川流域圏

は本来の流域をはる井市までの広範囲にして牧之原台地の茶潤し、工業用水として何より上水道で数十。私たちは水の恵み。河口近くにあるウミガメの産卵場となし、水源の森や川の目されている。多くの命の糧として「水を飲む者、そのえ」。(富士常葉大) ▽SBSラジオ「の土曜はごきげん」 午前7時から。

「やりたいこと、やり遂げる」 元IT技師、介護施設開所

三島・渡部夫妻 元酒屋を改修 あすオープン

浩考さんは脱サラしての「仕事を」という思いが一念発起。ソーシャルワーカーとして病院に勤めていた三島市出身の美保子さんと夢を一つにして新スタートを切る。

「一階建ての酒屋の元店舗兼住居を改装した。三島に移り住んで知り合った酒屋が「若い人に頑張ってほしい」と協力を申し出てくれた。「これまで人に助けられてきた」という渡部夫妻は、定員十三人の少人数で「個」にこだわったきめ細やかなサービスと考える。

二階建ての酒屋の元店舗兼住居を改装した。三島に移り住んで知り合った酒屋が「若い人に頑張ってほしい」と協力を申し出てくれた。「これまで人に助けられてきた」という渡部夫妻は、定員十三人の少人数で「個」にこだわったきめ細やかなサービスと考える。

民家でのデイサービス構想を持ち掛けたのは浩考さんから。会社で順調に経験を積む一方で、「いつかは高齢者のための仕事を」という思いがあった。このまま会社に残るか本当にやりたいことをやるか、転換期を迎えた時に決断した。

社会福祉士と介護支援専門員の資格を持ち、現場経験豊富な美保子さんの方が当初は「独立はハードルが高い」と感じていた。しかし、長男(こ

三島市藤代町に二日、民家を改修した通所介護施設「ふじしろデイサービス」がオープンする。運営するのは渡部浩考さん(三三)、美保子さん(三三)夫妻。千葉県出身で大手IT企業の技術者だった



開所に備える渡部さん夫妻(左の二人)とスタッフ
＝三島市藤代町の「ふじしろデイサービス」

スタッフは夫妻を含め六人。一人ひとりテーマを決めての生活リハビリや手肌の触れ合いを通じたスウェーデン発のコミュニケーションションケア「タクティールケア」なども導入する。

二日午前十時から開所式が行われ施設内覧も可能。問い合わせは同施設〈電055(975)2435〉へ。